

# 2020 年度さくらねこ無料不妊手術事業

## 一般枠アンケート 集計結果

### さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。

2020 年度は 3,544 名の個人(一般枠)、35 団体、171 の行政と協働し、約 5 万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数 29,604 頭

団体枠での無料不妊手術実施数 1,973 頭

行政枠での無料不妊手術実施数 17,235 頭

多頭飼育救済枠(行政枠)での無料不妊手術実施数 1,062 頭(うち犬 11 頭含む)

---

無料不妊手術実施頭数 総合計 : 49,874 頭

### 1. アンケート概要

2020 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(一般枠)に事後調査アンケートを実施しました。

※一般枠とは:行政枠、団体枠に属さない個人ボランティア

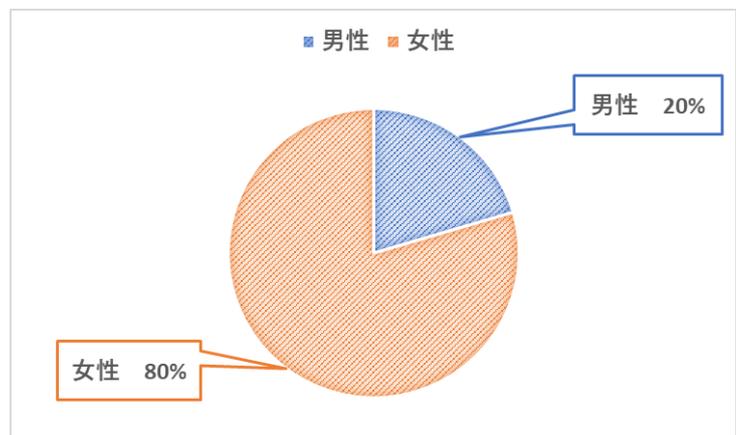
- 2020 年度さくらねこ無料不妊手術チケット一般枠申請者数 3,544 人
- アンケート依頼時(2021 年 4 月 6 日)のマイページ登録者数 8,691 件
- アンケート回答数 2,920 件(マイページ登録者数 8,691 件中)

### 2. 協働ボランティアの男女比

男 性 : 597 名

女 性 : 2,323 名

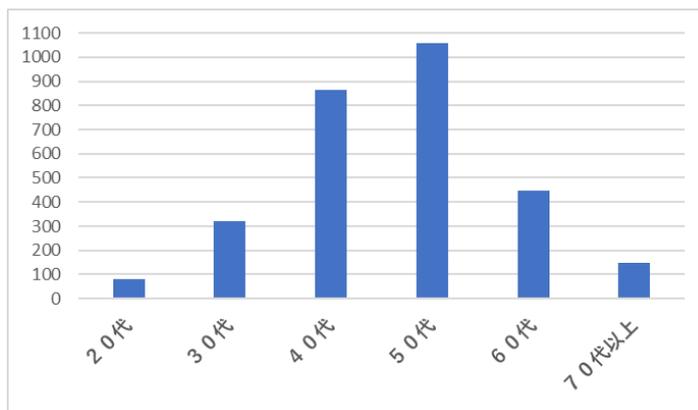
80%が女性でした。



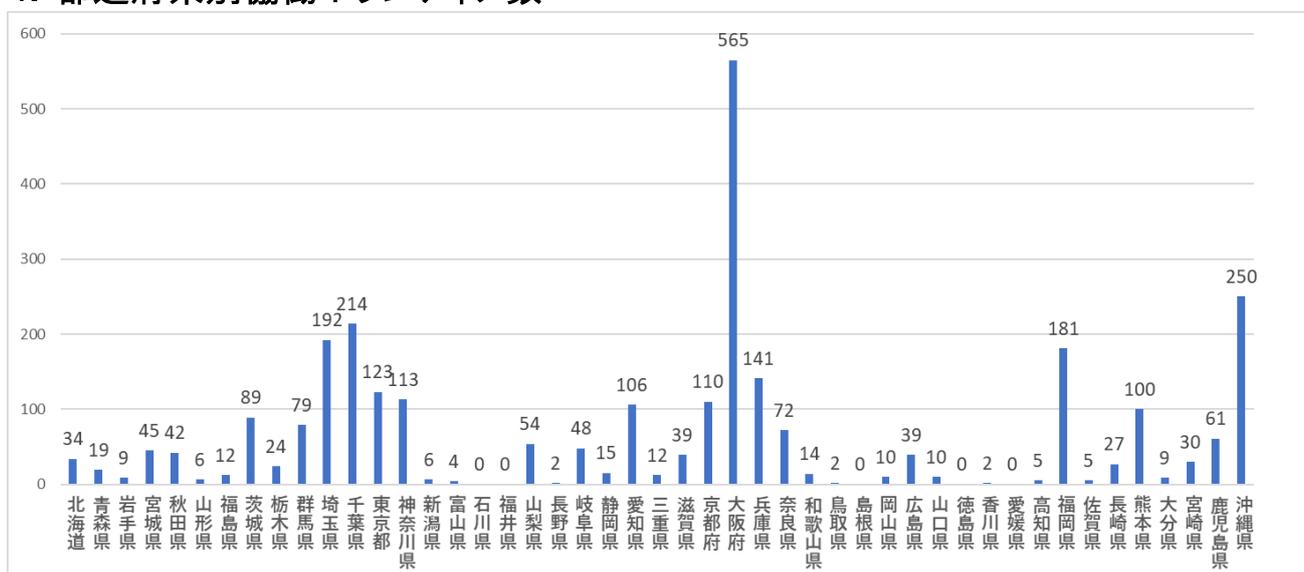
### 3. 協働ボランティアの年齢層

20代： 81名    50代： 1,058名  
 30代： 322名    60代： 446名  
 40代： 866名    70代以上：147名

40代以上が86%、20代は3%でした。



### 4. 都道府県別協働ボランティア数



大阪のボランティア数が突出している状況は、ここ数年変わりません。次いで、沖縄県、千葉県が200名超となっています。協働ボランティアの数と協力病院の数は比例することが多く、協力病院0地帯が多い中四国ではボランティア数も伸び悩んでいます。

### 5. 配布チケット数について

2020年度に配布を受けたチケット数	票数	%
1～10	1223	63%
11～30	464	24%
31～60	156	8%
61～100	69	4%
100～200	32	2%
201以上	0	0%

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	1016	43%
80～99%	411	17%
60～79%	189	8%
40～59%	139	6%
20～39%	73	3%
1～19%	59	2%
使わなかった	478	20%

60%のボランティアが80%以上の使用率でした。2020年度は、新型コロナウイルスの影響による病院の受入中止や活動自粛もあって、チケット未使用が増加し、全体の20%にもなりました。

## 6. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	200	7%
いいえ	2720	93%

行政が公式に認めた地域猫は、昨年度の5%からやや微増の7%でした。

あなたがエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	570	19.5%
1	187	6.4%
2～5	1048	35.9%
6～10	520	17.8%
11～15	234	8.0%
16～20	149	5.1%
21～30	100	3.4%
31～50	70	2.4%
51～80	28	1.0%
81～250	13	0.4%
250以上	1	0%

## 7. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	2211	76%
猫の性格が穏やかになった	1186	41%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	1420	49%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	545	19%
猫の健康状態が良くなった	949	33%
その他	239	8%

その他の猫の変化としては、「猫の交通事故やケガが減った」、「ゴミを漁らなくなった」、「虐待や嫌がらせをする人が減った」等の意見が挙がりました。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	1452	50%
猫の数は変わらない	1297	44%
猫の数が増えた	171	6%

猫の数が増えた事例では、「未手術の猫が出産してしまった」、「遺棄が増えた」、「他の地域から別の猫が来るようになった」等の報告が挙がりました。

## 8. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	1107	38%
苦情が減った	744	25%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	744	25%
協力してくれるひとが増えた(できた)	1540	53%
地域の人に感謝された	1117	38%
猫を可愛がってくれる人が増えた	953	33%
その他	378	13%

その他の変化では、「地域の人と話す機会が増えた」、「さくらねこではない猫を見つけると教えてくれるようになった」、「猫の相談を受けることが増えた」などの回答がありました。

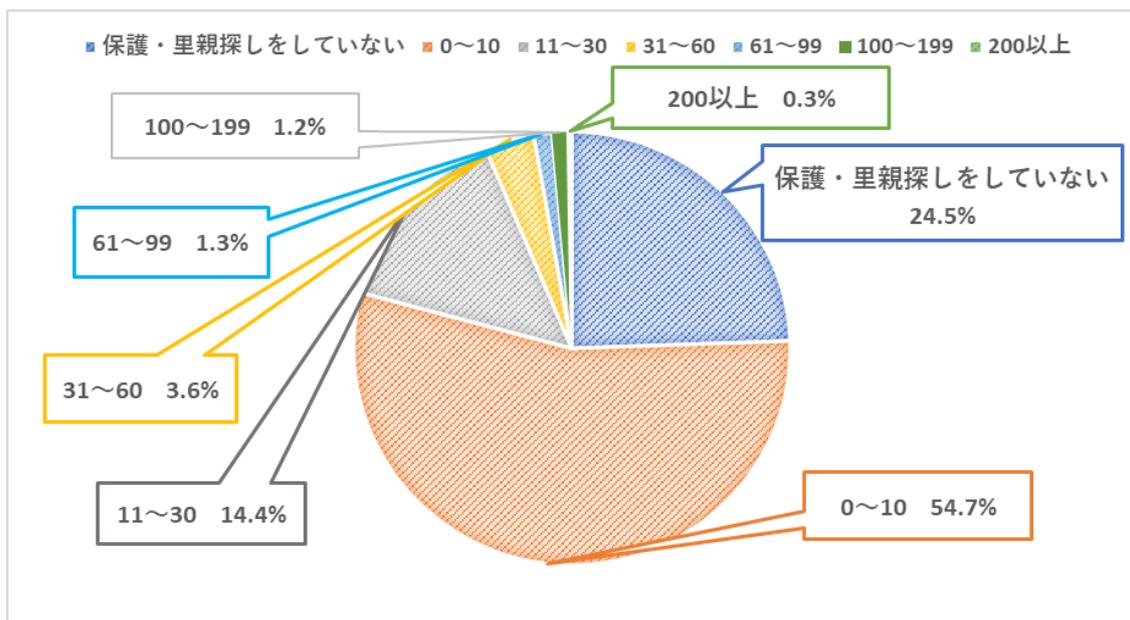
住民と猫ボランティア(あなた)の関係は	票数	%
良くなった	1285	44%
変わらない	1590	54%
悪くなった	45	2%

TNR を行ったことで、地域の餌やりさんとの関係が悪化したという報告が多くありました。餌やりさんのなかには、不妊手術の重要性を理解せず、TNR に反対する方が少なからずいるのが現状です。

## 9. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	2206	76%
いいえ	714	24%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
保護・里親探しをしていない	714	24.5%
0～10	1597	54.7%
11～30	421	14.4%
31～60	106	3.6%
61～99	39	1.3%
100～199	35	1.2%
200 以上	8	0.3%



2206 名(76%)の協働ボランティアが 25,084 頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	338	11.6%
1	267	9.1%
2～5	1197	41.0%
6～10	578	19.8%
11～15	256	8.8%
15～20	137	4.7%
21～30	84	2.9%
31～50	43	1.5%
51～80	18	0.6%
81～100	0	0%
101 以上	2	0.1%

## 10. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	1344	46%
資金不足	1937	66%
捕獲がうまくできない	1142	39%
行政との調整	866	30%
地元地域との調整	1292	44%
その他	220	8%
特になし	211	7%

今年度のアンケートで、その他の課題として数多く上がったのが「餌やりさんと良好な関係が築けない」というものでした。そのほか「活動について家族の理解が得られない」、「リターンできない猫の行き場がない」、「行政の協力不足」などのほか、協力病院に関する課題(予約が取りづらい、遠方で搬送困難)も寄せられました。

また、「新型コロナウイルス感染症の影響で思ったように活動ができなかった」という報告もありました。

## 11. 飼い猫の捕獲について

2020 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	267	9%
いいえ	2653	91%

アンケート回答者 2,920 名のうち 267 名(9%)が、飼い猫を捕獲したことがあったと回答しています。通常は、飼い猫と確認できた時点で手術はせずに元に戻しますが、誤って 6 頭(飼い猫と思われるが飼い主が特定できなかった 3 頭を含む)に不妊手術を行ったという報告と、去勢手術済みであった 2 頭に耳カットしてしまったという報告が寄せられました。

### 質問:間違っ手術した猫について、飼い主とはどう解決しましたか？

- 手術済みだったため、耳カットしてリターンしたのちに飼い猫と判明し、慌てて謝罪にきました。
- 不妊手術後に飼い猫と判明しましたが、問題にはなりませんでした。
- 謝罪に伺った際に飼い猫を外に出さないようお願いしました。特にトラブルには発展していません。
- 飼い主の方と話し合いの機会を持ちましたが、納得はしていただけませんでした。

## 12. ピックアップコメント

- 基金なくて活動はできません。自費では限界があるためです。救済されたのは野良猫たちだけではありません。野良猫への餌やりをめぐる軋轢が生じている地域住民の人間関係の改善にも多いに役立っています。このコロナ禍でも寄付金を捻出してくださり、心より深謝申し上げます。
- 昨年度もたくさんの野良猫たちが「さくらねこ」へと変わる事ができました。堂々と餌がもらえます。ゆっくり寝る事が出来ます。それも、さくらねこサポーターの皆様のご寄付のお陰です。たくさんの感謝の気持ちを抱いて、また野良猫たちがいる現場へと向かいます。
- 野良の子猫が車にひかれて死んでいくところに遭遇し、「もう他人事にはおけない」と野良猫の TNR を決意したものの、方法もわからない、資金もない状況。どうぶつ基金の無料不妊手術チケットがあったからこそ、初心者の私でも「一度やってみよう」と踏み出せた大きな一歩でした。そのおかげか今年の春は未だ子猫に出会っていません。本当にありがとうございます。
- コロナ禍で、皆様大変な状況の中、見ず知らずの不幸な猫を救うためにご支援頂き、ありがとうございます。

- 過去のトラブルによって野良猫の餌やり禁止だった自治会ですが、さくらねこのことを説明したら、避妊去勢のされている猫は野良猫でもみんなで大切にしようとの方針になりました！まだまだ知らない人も多い制度ですが確実に前進しています。
- おかげさまでマンション敷地内に居ついた5頭すべての不妊手術ができました。子猫がどんどん生まれてしまい困っていましたが、これで流れを断ち切ることができました。よその雄猫も寄り付かなくなるなどマンション周辺環境が改善し、猫好きなひとと動物嫌いなひととの共存がはかれるようになりました。
- 狭い住宅街で職場の同僚たちと TNR 活動をしています。みんな猫飼いです。近所にご飯やお家は用意するけど、去勢・避妊については我関せず、という住民がおり、年々野良猫が増える一方でした。車に轢かれて亡くなってしまいう猫が毎年出ており、こんな酷い目にあう猫を減らそうと、自費で TNR 活動をしていました。しかし、手術費の面で思うように去勢・避妊ができずにいたところ、どうぶつ基金のチケットを利用することで、手術ができる猫が増えました。とにかくこれ以上、猫を増やさないと。まだまだ道半ばですが、これを目標に同僚達と活動を続けていくため、この基金はとても頼りになる存在です。本当にありがとうございます。
- 私の住んでいる市の助成金制度は、制度の制約があり、野良猫の TNR には使えません。未手術の野良猫がいないようにするためには、どうぶつ基金からのご支援が頼りです。チケットのおかげで TNR 活動が継続でき本当に助かっております。ありがとうございます。
- さくらねこ無料不妊手術事業のおかげで、地域猫活動をする個人や自治会などが増えました。街中でさくらねこを見かけることもしばしばで、大変ありがたく思っています。猫の殺処分数を減らすことに大きな成果をあげておられると思います。これもひとえに、ご賛同とご寄付をくださるサポーターの皆様のおかげだと感謝しております。
- 今回、初めて一般枠チケットで不妊手術をさせていただきました。ありがとうございました！  
私が住んでいる地域は周りが農家ばかりで、田舎とゆうこともあって捨て猫も多く、さくらねこは皆無でした。生まれたばかりの子猫が車の中に入り込んでしまう事故も多く発生していて、今回、少しでも猫の事故などが減らせられればと思い応募しました。  
本当に有り難うございました！

### 13. 総括

- 地域住民との関わりの変化では、53%のボランティアが「協力してくれる人が増えた(できた)」と回答しました。なかには、活動地域の飲食店などが募金箱を設置してくれたり、自ら保護や TNR に取り組む人も出始めたという嬉しい報告も届いています。そのほか、「TNR 後、猫が嫌いな人とも話ができるようになった」、「猫に関する情報を教えてくれる人が増えた」、「行政からの依頼が増え、行政との関係が好転した」という報告も多く、“さくらねこ”や“さくら耳”が浸透してきたことを実感しているという声が寄せられました。

しかしながら、虐待行為や猫への嫌がらせなどが減らない、餌やりを行うボランティアへの恫喝などは、今回のアンケートでも報告されています。全国でも虐待事案が多数発生しており、コロナ禍のストレスを猫に向ける傾向が強まっているとも考えられます。一筋縄ではいきませんが、近隣住民との関係を良好に保ち、見守る人＝監視の目を増やしていかなければいけません。

- 今回のアンケートでは、マナーを守らない餌やりさんとの関係がうまくいかず、説得に苦労しているといった回答が目立ちました。TNR を通して餌やりさんとの関係が悪化したと回答したボランティアも複数おり、近隣住民はもとより、不妊手術の重要性を理解していない餌やりさんの存在が TNR を進めるうえで障害になっていると推測されます。マナーを守らない餌やりによる影響は大きく、餌やり＝迷惑行為という図式ができあがってしまった地域では、マナーを守って活動しているボランティアに対しても風当たりが強くなります。

そのような背景もあってか、TNR 活動に取り組んでいることを周囲に話さず、目立たないように活動していると答えた方が多くいました。野良猫の問題を地域の問題として取り組む自治会や商店街などが増える一方、「さくらねこ」や「TNR」への理解がなかなか進まない地域もあります。地域住民への周知活動などは、行政がもっとも得意とする分野です。だからこそ、行政と対立するばかりではなく、いかに行政を巻き込んでいくかを考えていかなければなりません。

- 昨年に引き続き、行政に認められた地域猫活動地域で活動している例は少なく、全体のたった 7%でした。近年、動物愛護への関心が高まり、飼い主のいない猫の不妊手術に助成金を出す行政も増えていきます。しかし、その実状は、制約が多く申請のハードルが高いうえ、使い勝手が悪く金額も不十分です。また、合意形成に時間がかかる現行の地域猫活動では、いつまでたっても問題は解決しません。地域の理解を得るために重要なポイントは、まず猫の繁殖を止めること。そのためには、どうぶつ基金が提唱する TNR 先行型地域猫活動がもっとも有効です。

さまざまな課題はあるものの、行政とボランティアがうまく協働できている地域では、TNR 活動も順調に進んでいます。行政に対し、現行の地域猫活動の見直しと真に有効な TNR 先行型地域猫活動への切り替え、さらに民間との協働を働きかけていくことが必要でしょう。